

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立能古見小学校
1 前年度 評価結果の概要	1 学力向上 基幹調査から分析した児童が身に付けている分野、不十分な分野を再度確認し、次年度につなげ、高めていく方法を模索する必要がある。 2 人権教育 心の教育は学力向上と常にセットにあると考える。児童の育った心を大切に、それを自信につなげられるよう、対策をとっていく必要がある。 3 コミュニティ・スクールとして、地域との連携を強化し、地域の物的・人的財産の発掘を行い、体験活動の活性化につなげる。
2 学校教育目標	「かしこく、正しく、たくましく」共に伸びゆく能古見っ子の育成
3 本年度の重点目標	能古見っ子の「学力向上」と「人権意識の向上」

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		5 最終評価				主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・校内研修の時間を定期的に設け、マイプランの共有と実践に取り組む。 ・学びタイムに確実に継続して取り組む。							学力向上CO
	○児童が1時間の授業を大切に、主体的・対話的に学習に取り組むための授業づくり	・「授業は、よくわかり、楽しい。」と思う児童90%以上	・めあての持たせ方を工夫し、めあてに応じたふり返りが書けるように指導の工夫をする。 ・家庭学習の手引きや自学のススメをもとに家庭学習の強化を図る。							研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動(相手を尊重し大切に「人権教育」の徹底)	○学級及び個人の「自分のよいところが言える」と思う児童80%以上	・各学年で心のめあてを設定し、振り返り、平和学習や人権教室(年2回)等の実施 ・道徳科の授業の充実を図り、人権意識の向上につなげる ・保護者や地域と連携したふさと体験活動の実施 ・前期GOOD JOBカード、後期「ありがとうの木」感謝の気持ちを伝える取り組み…「人権の花」感謝の手紙							正しくP
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめアンケート等で、嫌な思いをしている児童10%以下	・心のアンケート実施(年6回) ・学校生活(いじめ)アンケート実施(年2回) ・Q-Uアンケートの実施(年2回) ・アンケートをもとに個別に教育相談を実施 ・教育相談週間(Q-Uアンケートの後に行う)							正しくP
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○学校や家庭で健康に気を付けて、手洗いやうがいに取り組んでいる児童90%以上。 ○「週に3回以上外遊びをする」児童85%以上。 ○1日に3回歯みがきをしている児童80%以上。	・健康に関する情報を「保健便り」で伝え、日々の健康チェックや「歯みがきカレンダー」等の記入を通して基本的健康活動の習慣化を図る。 ・掃除時間後手洗いの曲を流し、手洗いの励行をする。(6月、1月、一週間) ・年間を通して毎週金曜日に「外遊びの日」を設定し、外で短時間でも遊ぶように呼びかける。(放送) ・食育月間や給食週間を利用して、食の大切さを呼びかける							たくましくP
	○体育学習の充実(スポーツチャレンジ・体育学習の充実)	○「体育の授業において、指導技術が向上した」教職員80%以上。	・外部講師を招聘し、ともに授業に取り組むことで学習の充実を図る。 ・全学級がスポーツチャレンジに取り組む、記録をとり、平均や最高得点等を紹介する。							たくましくP
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。(月45時間、年間360時間を超えない)	・ICTを活用した業務の効率化 ・定時退勤日の徹底							教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実 ○地域との連携	○「個に応じたきめ細やかな指導」「交流学習の充実」 ○「地域人材を活用した取り組みの充実」	○合理的配慮し、特別支援教育に関する専門性が向上した教員が90%以上 ○「学校は、保護者や地域の方と協力して子どもの指導や行事開催に取り組んでいる」と回答した割合80%以上	・巡回相談を全学級行い、実態に応じた指導ができるようにする。 ・職員連絡会や職員研修で定期的に児童についての共通理解を図る。 ・学校運営協議会、関係機関と連携を図り、地域人材リストを作成し、教育課程の中に位置づける。							福田 教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--